

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	市役所庁舎建設調査特別委員会
委員名	関 武徳、只野直悦、氷室勝好、鎌内つぎ子、横山悦子、相澤孝弘、後藤錦信、豊嶋正人、佐藤和好、大友文司、佐藤清隆
日時	平成29年8月22日(火)～平成29年8月23日(水)
視察先	1. 新潟県新発田市 2. 新潟県燕市
出席者 (説明者)	1. 新潟県新発田市総務課事業推進係 佐藤係長 2. 新潟県燕市総務部用地管財課 藤由課長

2. 視察内容

視察項目	1. 庁舎建設事業について(新潟県新発田市) 2. 庁舎建設事業について(新潟県燕市)
視察内容	<p>1. 庁舎建設事業について(新潟県新発田市)</p> <p>旧庁舎が昭和41年建築で築50年程度が経過した状況から、老朽化、耐震性、狭隘化、情報化対応のため平成4年から庁舎基金積み立てを開始し、平成15年から17年にかけての市町村合併を経て、庁内検討会、新庁舎建設室を設け「新庁舎建設基本構想」を策定しました。東日本大震災を経て、平成23年度に全世帯アンケートの実施及び予算を議決し「新庁舎建設基本計画」策定、設計者プロポーザルを実施し、平成24年度より基本設計、用地買収、実施設計、平成26年度より工事着工し平成28年度の竣工を迎えました。竣工後、平成29年1月に新庁舎移転、共用開始となっています。</p> <p>基本構想・基本計画の策定に当たっては、「やさしさと質実剛健」を基本コンセプトに据え、建設地の選定に当たっては、新庁舎がまちづくりの一翼を担うことをベースとしていました。また、設計者の選定においては、公募型プロポーザルを採用しています。</p> <p>新庁舎の設備概要・環境への配慮としては、大型可動建具を使用したラウンジが整備されており、構造としては、設計者の考えで工事期間の短縮と地下に負荷がかかり過ぎないようにということとコスト面を考慮し、3階での中間免震構造となっております。</p> <p>また、庁舎は分散方式を採用しており、人口減少もあり職員約800人の半数は地域エリアへ配置し地域の活性化も考慮した庁舎配置、職員配置としているとのことです。</p> <p>2. 庁舎建設事業について(新潟県燕市)</p> <p>燕市は平成18年3月に合併した自治体であり、合併の際の合併協定書の内容に合併後10年以内の早い時期に旧吉田町地内に新たな新庁舎が建設することが盛り込ま</p>

	<p>れました。</p> <p>合併後、新庁舎の規模・機能等の具体化を図り、次へつなげる設計を目的として「新庁舎建設基本計画」の策定に取り組み、コンサルタントとの委託契約、外部検討組織を設置し有識者、住民代表、関係機関の意見を聞きながら平成 20 年 10 月に素案をまとめ、議会協議、パブリックコメントなどを経て平成 21 年に策定が完了しました。</p> <p>平成 21 年度より設計業務に着手し、全国公募の公開型設計競技(コンペ方式を基本)を実施し、設計者を選定し基本設計に着手し、設計者の提案を基に市民ワークショップ、臨時議会での協議を行いながら基本設計をまとめ、引き続き実施設計の策定を進めました。</p> <p>庁舎建設に当たっての基本コンセプトとして、新庁舎は市民が自然と集い、気軽にくつろげ交流することのできる市民の「えん側」となるよう、市民同士、市民と行政の燕(えん)を結ぶ「4つのえん側」の立体的なつながりで一体感の醸成を図り、にぎわいのあるまちづくりの拠点となる庁舎の実現を目指しました。</p> <p>「4つのえん側」は庁舎南側の各階の待合スペースをふれあいのえん(縁)側、まちづくり広場と隣接するウッドデッキスペースをにぎわいのえん(宴)側、つばめホールを協働のえん(援)側、エントランス及び建物東側の屋根付空間をまちのえん(燕)側としました。</p> <p>また、災害時に市民を守る防災拠点として、屋上へのヘリポートの設置や免震構造の採用、非常用電源装置の設置などの機能を持たせました。</p>
考 察	<p>新発田市では、平成 20 年に庁内検討会を立ち上げ、平成 29 年 1 月の供用開始まで、市民に対しての全世帯アンケートの実施や、策定委員会の設置など市民とのコンセンサスを図りながら実施されていました。庁舎がまちづくりを担うという視点から市街地の中心を建設位置とし、大型可動建具を使用したラウンジを広場として整備される等、市民の皆さんが気軽に立ち寄れる庁舎となっています。</p> <p>燕市では、災害時の拠点としての屋上へのヘリポートの設置、また、来庁者にわかりやすい窓口の配置、集約によるワンストップサービスが可能となる庁舎となっています。</p> <p>本市においても周辺のまちづくりとしっかりと連携し、市民が利用し易く各種防災機能や環境への配慮を行いながら、大崎市の総合窓口としての役割が果たせるような庁舎建設を望むものです。</p>

以 上